

ハラスメント相談室だより



大阪大学
「ワニ博士」

出会いと別れの春です。ハラスメント相談室だより第5号では、ハラスメント相談室について改めてご紹介します。

◆ハラスメント相談室の場所を知っていますか？

卒業や修了、人事異動などこの季節には新たな人間関係の動きがあります。困った時にはハラスメント相談室に相談してみませんか？相談員には守秘義務がありますので、秘密は必ず守られます。安心して相談してください。

さて、相談室に行ってみようと思っても、意外と場所をご存じないかもしれません。それもそのはず、相談したい人の気持ちを考えて、相談室は外から見えにくい場所にあるからです。

大阪大学の全てのキャンパスに、ハラスメント相談室があります。専門相談員がお待ちしていますので気軽に立ち寄ってみてください。(相談には予約が必要です。詳しくはHPで確認してください。)

吹田キャンパス (工学R4棟2階)
電話 06-6879-7169

メモ

吹田相談室には、月曜日から金曜日まで毎日専門相談員がおります。女性の相談員5名、男性の相談員1名が交替でみなさんをお待ちしています。建物の入り口は職員会館の側にあります。開室時間以外は施錠していますので気を付けてくださいね。



箕面キャンパス (管理棟3階)
電話 072-730-5112

メモ

緑豊かな箕面キャンパスの相談室は、管理棟の3階です。毎週火曜と水曜に、専門相談員(女性)が対応しています。ひろびろとした部屋で窓も大きく開放的な雰囲気相談室です。なんでも話してみてください。

◆相談されるときには◆

- ◆ 予め電話で相談の予約をしてください。
- ◆ 突然お越しになられても、他の方の対応でお話を伺えないことがあります。
- ◆ 閉室等の最新情報は阪大HPに掲載しています。

豊中キャンパスは裏面を見てね！



大阪大学HP



豊中キャンパス（保健センター東階段2階）

セクシュアル・ハラスメント 06-6850-5029

アカデミック・パワー等ハラスメント 06-6850-6006



メモ

豊中キャンパスにはセクハラ(月～金曜)とアカハラ・パワハラ(月～木曜)別々に相談室があります。どちらも女性の専門相談員がお話をお伺いします。

相談が複数のハラスメントを含む内容でしたら、一度どちらかの相談室で話をしてみてください。

必要に応じて担当となる相談員におつなぎします。

相談室の入り口は少しわかりにくいですが、待兼池側にあります。階段を上がってすぐの2室です。



コラム

相談員からちょっとひとこと



ハラスメント相談室では、現在8名の専門相談員が相談をお受けしています。専門相談員からの「ちょっとひとこと」を毎号コラムでお届けします。第5回目は吹田地区セクシュアル・ハラスメント相談室の相談員のAさんです。

最近、パワハラやアカハラの相談を聞いていると、ちょっとした気遣いや知識と話し合いがあればここまでこじれなくて済んだらと思うことが多くあります。

たとえば、個人的な問題でしばらく研究に集中できなかった学生と、これまでとは違う「やる気のない」学生を心配してなんとか頑張らせて欲しいと話しかける教員がいるとします。

学生は個人的なことを先生に話すのを遠慮します。個人的なことを先生に言ったら心配をかけるのか、不利益を受けるのではないかと、話すことを考え付かない学生もいるでしょう。先生の気持ちや反応を予測しようとしたらよいのかわからなくなり立ち竦んでいるのかもしれません。

先生は学生が心配で何度も注意します。事情を聞いて力になろうとも考えています。しかし、何も話さないまま研究に集中しない学生に段々腹が立ってきて、顔を見れば「このままでは君は卒業できない」とか「やる気がないのなら出てこなくていい」とか強い言葉を人前でもかけるようになります。

先生の言葉に学生はどんどん追い込まれて相談室に来る時には「怖くて先生のところでは研究できない」状態になってしまっています。ここまで来ると悪意の人は誰もいないのに関係修復は難しいことになってしまいます。

まず考えなければならないのは、個人的な問題を誰に話すか話さないのかを決めるのは学生だということです。指導的な立場にいる人は「事情を知ればしてやれることがあるかもしれない」と思い「なぜ話さない」と学生を責める方向に考えがちですが、無理やり聞き出そうとすることはいい結果を生みません。

では、教員は何もしない方がいいのでしょうか。もちろんそんなことはありません。

まず、学生に「心配しているし、相談に乗る意志がある。知り合いに相談しにくければ学内に相談窓口がある」ことを伝えるのがいいと思います。何度か話しても状況が改善されないと判断した時には「このままでは〇〇の不利益を被る事になる。そうならないためにはこの課題をいつまでにクリアしなければならない」と学生が置かれている立場を説明します。

学生が自分で問題と折り合いをつけられるように適切な情報を与え信頼し見守ることが一番大切だと思います。



【ご意見お待ちしております】

第5号はいかがでしたか？より良い紙面にするため、ご意見・ご感想・取り上げてほしいテーマなど編集までお寄せください。お待ちしております！

